

平成 28 年 5 月 11 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 上席執行役員 鷺本 晴吾
電話番号：(03) 5733-2121

第 2 四半期連結累計期間業績と前年同期実績との差異に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)における業績につき、業績予想をしておりませんので、前年同期との対比について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成28年 9 月期第 2 四半期連結累計期間(平成27年10月 1 日～平成28年 3 月31日) 業績と前年同期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前年同期実績 (A)	百万円 2,400	百万円 △61	百万円 60	百万円 71	円 銭 0.49
今回発表業績 (B)	3,362	△519	△650	△642	△3.97
増減額 (B-A)	961	△457	△711	△714	—
増減率 (%)	40.0	—	—	—	—

2. 差異の理由

投資銀行事業では、アレンジメント業務の主たる対象である太陽光発電事業への投資家のニーズは依然として高い水準で推移しているものの、優良プロジェクトの減少とともに獲得競争が激化しており、需給は逼迫しアレンジメント業務受託の件数は減少しました。当社グループはこれに対応すべく、アレンジメント業務受託のみではなく、プロジェクトを仕入れて売却する施策も並行して推進しました。第 2 四半期に入ってから、案件確保の確度を上げ利益を確保するため、プロジェクトの開発期間からの投資を開始しましたが、投資開始からプロジェクト収益化までの期間を要するようになりました。

このような施策により、アレンジメント業務受託手数料が減少したもののプロジェクト売却による売上を計上し、不動産事業では本格稼働を始めた戸建住宅等の販売が増加した結果、売上高は前年同期比40.0%増の3,362百万円となりました。売上原価はプロジェクト売却や戸建住宅等の販売増加により、前年同期比89.5%増の2,604百万円となり、販売費及び一般管理費においては投資銀行業務やメツァ（北欧の雰囲気とムーミンの世界を体験できる施設）事業における人員増強による人件費やその他の費用が増加した結果、営業損失は519百万円（前年同期は61百万円の損失）となりました。経常損失は、為替差損92百万円により650百万円（前年同期は60百万円の利益）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は642百万円（前年同期は71百万円の利益）となりました。

以 上